

●三位一体後第十五主日

# 泉のほとり

今月の詩編 「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。



## わたしの友とは

主は弟子たちに「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしに つながっていないながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる」と語られました。そして「わたしの話したとばによつて、あなたがたは既にきよくなつてゐる」と語つて下さいました。しかし、きよくなつたというところで「完了」ではなく、なお「つながっていない」と戒められ、「人がわたしにつながつており、わたしもその人につながつていけば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては何もできない。わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまふ」と話されたのです。

更に、主は語られるのです。「あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、わたしの父は栄光をお受けになる」と。弟子たちに「豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら」と言われたのです。

人はこの地上の信仰の歩みにおいて、実を結ぶか、結ばないかは関係なく、輝かしい結末を確保した、得たと聞きたいかもしれませんが、しかし、最も近くにいる弟子たちにさえ、「つながっていないさ。つながつて、実を結ぶものになりなさい。でなければ、切り取られる。実を結び、わたしの弟子になるように」と強調される主イエスの御心を吟味し、「知恵」を得ていきたいものです。

「つながっている」とは主の戒めを守り、主の愛にとどまることです。主は言われました。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの戒めである」と。そして「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行ふならば、あなたがたはわたしの友である」とも語られたのです。友のために命を捨てる愛で、互いに愛し合うようにと。

主は「互いに愛し合う」を、「新しい戒め」と示されました。使徒ヨハネは、この戒めは旧約聖書から既に与えられてきたものであることと言及しつつ、「私はそれを新しい戒めとして書いています」と述べています。

どういうことでしょうか。古い戒めのもとでは、人は「互いに愛し合いなさい」という戒めもなし得ないので。しかし、主は十字架により、律法を以前のようにはなく、新しい戒めにしてくださいました。それは文字や言葉によるものではなく、血と肉によるものでした。

今、このヨハネの福音書は過越祭の前日です。屠られる羊の命。自分の代わりにその羊の命が落とされ、死ぬことでも人は厳粛な思いを抱くものです。主の弟子たちがこれから目視するのは屠られる羊の命ではありません。これまで、自分たちを教え、ご自身を惜しまれず、共に過ごされてきた主です。「先生」、「主よ」と呼んできた方が、友のために命を捨てる。血が流され、肉が裂かれる。自分が生きるものとなるために、十字架の上でその生々しい血と肉がさげられるのです。

その主イエスの血と肉は彼らの心を完全にへりくだらせ、人を完全に変えられる神の力ではないでしょうか。これまで自分自身を捨てることより守ろうと自分を先に、自分を優先にと主張してきて、自分を捨てるよりも自分自身を惜しんで生きてきたことが、主の十字架の前、その血と肉の前、取り去られるものとなつたのです。

「わたしのことばがあなたがたのうちにとどまり、わたしの愛にとどまるならば」と語られた主。弟子たちが主のことば、その愛にいつまでもとどまるようにとしてくださいました。その主ご自身であり、友のために命を捨て、新しい戒めに生きるようにしてくださいました。主イエスであることに気付かされるのです。

主イエスにつながつていきましょう。その愛にとどまり、主の血と肉が私に告げている、新しい戒めに生きていきましょう。主の弟子となり、私のために御子を与えられた天の父が栄光を受けられるよう、心から願つていきたいものです。その者が豊かに実を結ぶようにと、なお手入れをさせていただきます。天の父の御手をあらかじめ感謝し、賛美をさせていただきます。

2024年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

### 《今日のお知らせ》

- 次回の洗礼式と転入会式は十二月二日のクリスマス礼拝です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

### 《礼拝カテゴリーより》

- 本日の礼拝後、全体ミーティングを第二・三シオンルームで行います。

### 《教育奉仕委員会より》

- 本日の礼拝後、地下ホールで交わりの会(御言葉の分かち合い)を行います。

- 十一月二日(土)湘南基督教墓苑で墓苑礼拝を行います。今年は事前に参加者を募ります。教会から現地までバスをご利用の方が多数の場合(目安は二〇名)、バスを手配する予定です。バスの費用は、後日お知らせします。参加をご希望の方は(自家用車、公共交通機関をご利用の方も)九月二十九日(日)までにスタッフの宮間までお知らせください。宜しく願います。

### 《ぶどうの会より》

交わりの会があるため、ぶどうの会は休会です。

### 《今後の予定》

- 九月一五日 定例役員会

### 《憩いのみぎわ編集室より》

八月初め教会員の皆様には、憩いのみぎわ最終号への寄稿をお願いいたしました。本日八日(日)が原稿の締切ですが、今週半ばまでお待ちしていますので、ご準備の方は専用メールまたは担当者までお知らせください。

### 《ミニバザーより》

次週、九月一五日礼拝後に、ミニバザーのための集荷をいたします。扱う品目は「靴・バッグ」だけです。ご注意ください。それぞれ三点までです。よろしく願います。  
(日程などは、掲示板に貼りますのでご覧ください)

# 《ジュネーブ教会信仰問答》

第十三聖日後半

使徒信条「天に昇られ」に関して

問七八 しかしイエス・キリストは、天に昇られること  
によつて、世から離れ去り、もはやわれわ  
れとともに、いらつしやらないのですか。

答 いいえ。なぜならば、彼はその反対のことを申  
されましたから。すなわち、世の終りまでわれ  
われの側近くいると。

問七九 彼がわれわれと共におられるのは肉体における  
臨在によつてですか。

答 いいえ、高きに昇られた彼のみ体と、あまねく  
注がれる彼のみ力とは別のものがあります。

問八〇 彼は父の神の右に座したまへり、ということ  
を、あなたはどのように理解しますか。

答 それは、彼がすべてをすべ治めるために、天  
と地との主権を与えられなされたことでありま  
す。

問八一 しかし、ここにいわれている右と、この座  
すとは、何を意味しますか。

答 それはこの世の君主からとつた一つの比喩  
であつて、彼らは自分の代わりに統治させ  
るため、副官に任じた人々を、その右にす  
わらせるのであります。

問八二では、あなたの理解するところは、聖パウ  
ロが、彼は教会のかしらとせられ、すべての

の高位よりも高く上げられ、もろもろの  
名にる名をおうけになつた、といつて  
ことにほかなりませんか。

答 はい。その通りであります。

外山八郎訳（新教出版社1979年）使用



# 《今日の子ども礼拝》

説教 「荒野でのイスラエル」

聖書 出エジプト16章1〜5節

説教者 宮間彰広兄

# 《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「わたしは主、あなたの神」

聖書 出エジプト19章3〜6節、  
20章1〜3節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝（午前10時30分）

讃美歌 31番 351番

説教 「主の恵みを味わいながら」

聖書 一ペトロ2章1〜4 a節

説教者 吉村和雄 名誉牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 87A番 377番  
説教 「世があなたがたを憎むなら」  
聖書 ヨハネ15章18節～27節(新約 P.199)  
司式 石川一兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「光にして日なるキリストよ」 J.P.スウェーリンク

### ○讃美歌87A番

- めぐみのひかりは わがゆきなやむ  
やみ路を照らせり 神は愛なり  
われらも愛せん あいなる神を
- うき雲おおえど み顔の笑みは  
さやかに照りいず 神はあいなり  
われらも愛せん あいなる神を
- うれしいのときにも のぞみをあたえ  
なぐさめたまえり 神はあいなり  
われらも愛せん あいなる神を
- ものみなうつれど めぐみのひかり  
とわにぞかがやく 神はあいなり  
われらも愛せん あいなる神を

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「み翼のかげに」 I.D.サンキー 曲

み翼のかげに住めば  
嵐すさぶ夜にも  
我らに平安満ちる  
主の贖いのゆえに  
主の愛 離れて  
誰が生きられよう  
み翼のかげに  
平安満ちる

み翼のかげを行けば  
世の試みも喜び  
悪魔の力も恐れはなし  
我に平安永遠(とわ)に  
主の愛 離れて  
誰が生きられよう  
み翼のかげに  
平安永遠(とわ)に満ちる  
平安満ちる

### ○讃美歌377番

- 時代のゆうべは ややに迫りきぬ  
みずや地のうえを あまねくおおいし  
黒雲はついに 雨と降りしきて  
いなずまひらめき いかずちとどろく
- たのしめる人よ おののきおそれよ  
たかぶれるものよ かしこみひれふせ  
正義の御神は 地のうえにのぞみ  
今しもさばきをおこなわせたもう
- こころの貧しき み国のよつぎよ  
なやみとおそれの 行き交う夜にも  
み手によりすがり たがいに助けて  
やがて明けそむる あしたをばのぞめ
- 時代はきたりて まだ過ぎ去れども  
み神の国こそ ときわにさかゆえ  
えらばれし民よ おおしくたたかえ  
み神はかならず その国をたまわん

アーメン

聖餐曲「我が悩みの極みにありて」 J.パッヘル

後奏曲「聖なる聖なる、聖なるかな」 L.ミス

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。